

=====

北海道には、縁がある!!

北海道が好き!!

子供の時から、祖父や村の古老に聞かされた、「嘉兵衛さんと北前船・・・」、  
近隣出身の先輩(阿久 悠)、偉人(MK 鋼の三島徳七)、山口組(山口音吉?)・・・  
の話・・・

嶋育ち、上へ、大陸へ・・・小から大への憧れが・・・等の環境が大きい。  
そんな、こんなで、北海道に憧れて来た(未だつづいているが・・・)

そして、今回北の大地を一周する旅(6/3～6/25)に行ってきました。  
その記憶が薄れる前に、何時もの様に、記録に遺して置きたいと思います。  
(また、この旅以前の北海道への旅も、合わせて、載せています。)

-----

## 1・2022 桜旅

北海道の桜(4/30—5/3)

東北・北海道の桜旅(4/27～5/5)の途中、弘前から、青森駅に出た時、急に行先が  
変わった(新幹線からフェリー利用。に)・・・

- 
- ・(実は、青森から新幹線を利用して木古内駅、松前城址公園を經由して函館  
泊の予定であった・・・)
  - ・もう一つ、天性の船酔い症への挑戦も最後に挑戦してみたかった。)
- 

==--  
結果は、船酔いのトラウマ(玄界灘の苦い体験、)が吹っ飛んだ !!

天気も良く、青森港からフェリー(青函連絡船)で函館に着いた。(14:00)

ホテルに荷物を預けて、市電とケーブルを利用して、五稜郭の桜、函館山と上水  
道の桜と元町を周って、少し函館観光を兼ねた。

ケーブルの下で郷里の大先輩(嘉兵衛さん)の大きな立像を見上げて、少し誇らし  
く思った。

==

翌日(5/1)07:00、函館から電車、路線バスを乗り継いで、静内駅に着いた(15:00)  
日高本線は鶴川駅までとなり、様似迄は廃線になった(2021/3)。

-----

5/2、観光センター(旧 JR 静内駅舎)の勧めもあり、「しずない桜まつり」に参加した。

静内には 18 年前(2004)にも「日本の桜 100 選」の桜を追って来ているので二回目である。

その時は日高本線が様似まで通っていたので、そこからバスで襟裳岬まで行ったことが懐かしく思い出された。巷では、「襟裳は何もない岬です・・・」の歌が流行っていた。

今回の帰路は、静内(1500~1730 札幌の高速バスを利用して札幌に着いた。

荷物をコインロッカーに預けて、駅西から、北大構内を散策した。

(・・正門、クラーク博士像、ポプラ並木、を「都ぞ弥生」の寮歌を歌いながら・・)クラーク像近くの公園には未だ残雪があり、数本の桜(蝦夷山桜)がひっそりと咲いていた。

追伸:2004 年の桜旅の帰路には、札幌から「トワイライト・エクスプレス」のラッキーなキャンセル便があり、それに乗って大阪に帰っている・・

参照:ホームページ桜旅 2004。

## 2. 北大・関西支部記念祭に参加(5/28)。

桜旅を終えて、大阪に帰った後、関西北大会館の記念祭へ参加した。

北の大地には特別な思い出がある。

私の故郷(淡路島)と北海道と縁が深い

高田屋嘉兵衛、稲田騒動(庚午事変)と移民、作詞家の阿久悠氏

船田肇の小説「お登勢」

北大と恵迪寮の寮歌「都ぞ弥生」

広い大地を鉄道で周るのが、夢であった。

閉会後も、更に北海道への憧憬が増したた・・

=====

## 3・「北の大地をひとり旅」

先月は桜を追って、青森港から海峡フェリーで函館に上陸した。

函館、苫小牧 道南バスで鶴川、静内に着いた(5/1)。

静内桜まつり(二十間道路の桜並木)に参加(5/2)

日高本線が鶴川駅迄となり、様似まではバス運行となった(2021/3)

札幌、北大構内とポプラ並木を散策。

函館経由、新幹線で盛岡に戻る。

上坊牧野の一本桜(カスミ桜)に4回目でやっと・・・会えた。

八幡平の他の一本桜(田代平の紅山桜)をタクシーチャーターして

旧東北本線(IGR)の奥中山高原駅まで出た。

ついでに、IGR、あおい森鉄道を金田一温泉、目時を繋いで八戸～盛岡を往復した。

これで、岩手県を通るローカル線を全部踏破したことになる。

その日(5/5)は盛岡のR&Bに追加宿泊して、翌日(5/6)

盛岡(09:03)、東京で新幹線を乗り継ぎ無事大阪(15:03)に帰った。

----

その後5/28には北大関西支部の記念講演に参加した

それもまた、北海道周遊の想いを強くしていた。!!

=====

・・・そして、今回、「北の大地をひとり旅」 決行した・・・。

その、行程と概要 (封筒、パンフのメモ書き等より集約している・・・)

==序=(挿入)=====

今回の旅(6/3 から 6/24)を終わって

実に、行き当たりばつたりの旅であった!!。

失敗も、有ったが、それ以上に出会いと楽しい体験が出来た実り多い旅であった。

そんな中、松前の光善寺の掲示板で拝した易経の一説が心に沁みた!!。

「窮すれば即ち変じ、変じれば即ち通じる」

何とかなる、今回も何とかなってきた、今後も成る様にしかならない・・・。

----

体験も、記憶も時間が経つと忘れるのは常である。

今回もまた、(自分の為に)記録に遺しておくことにします。

=====

-----行程と概要-----

6/3 憧れの北海道周遊の旅に出発。

6/3 豊中発—高速バス—舞鶴着—新日本フェリー(小樽行)に乗船(23:50)

航海距離(1064k)、航行時間は約 21 時間を要したが、

心配した船酔いのトラウマを解消出来た。

6/4 小樽港着(20:40)---小樽グリーンホテル着(21:30)

- ・船は大きく、入出港時以外はほとんど揺れなかった、
- ・夜間航行の為、ほとんど外景は観えず、
- ・ターミナルからホテルへの途中荷物を忘れ、引き返す(無事)
- ・ホテルの形式(全自動、カード式、山小屋風相部屋)に面食らった!!

6/5 小樽駅前バスセンター (09:00) 発—— (積丹・神威岬線) —  
—島武威海岸入り口で降車(11:10)。・坂を上ってトンネルを抜けて、  
展望台を経て、海岸に降りる。・

積丹岬、灯台を歩いて、元に戻って昼食(ウニ弁当・鱈荘にて)、  
坂を下って、バス停(船元)発(13:52)---神威岬バス停着(14:21)  
神威岬は入り口のみ撮影し、待っていた岩内バスに移った  
次のバスは2時間後・とのこと・やむなし、

(その間、10分!!)・・神威岬踏めず

- ・岩内バス(14:31)に飛び乗って、泊経由 岩内バスセンター着(16:02)  
岩内市街散策、大火の後、整備され、明るく文化的、ロマンチックな町に  
なっている。木田金次郎画伯展に入る。

偶然、BAR&CAFÉ「isaribi」に入る。

近隣の人の溜まり場風、で岩内振興を図っているようである !!

一期一会の縁を頂く、目黒さん、清すし、住職・・客引き姉さん・・  
今夜の宿も近く(30m)のマリンホテルに泊まる。

----

6/6

昨夜、急に、行先を変える・・、

このまま海岸線を周って、瀬棚(せたな)から奥尻島、江刺、松前、函館、長万部、  
倶知安、余市、小樽に戻るコースを決断。

(はじめは、積丹半島を周って小樽に還る積りであった?)

そこで、問題を発見、小樽駅のロッカールームに預けたトランクの事である!!

- ・岩内バスセンター(往復) JR 小樽駅(09:00 から 11:00) トランクを引き取る
- ・岩内バスセンター(11:10)-----寿都バスセンター(12:18) 海岸路線にて
- ・寿都(13:30)、弁慶岬経由 せたな港 、北桧山バスセンター(15:00)
- ・寿都よりハイヤーにて瀬棚へ海岸線周った。
  - ・・運転手は 86 歳の佐藤氏、観光案内を兼ねて(¥17000)・・
- 車はほとんど通ってなかった、国道(229=雷電国道)

- ・せたな港からの奥尻便は廃止、バスセンターは北~~松山~~に移っていた。
- ・北~~松山~~バスセンターの係員は私の計画を知り、今夜の宿、明日の江差の乗継ぎ、オンデマンド便を手書きのリストを作ってくれた。
- ハイヤー(東)もすぐ前に在り、宿も近くの「さわだ旅館」を紹介してくれた。

---

6/7

昨日、作って頂いたリストによると江差行のバスは北~~松山~~バスセンター発 12:54 となっていたので、それまで、旅館の朝食の後、周りを散策した。

真駒内神社、せたな温泉ホテル、モール等、・・

ついでにホテルの温泉に入った(¥200)

どうも、せたな港の周りから、瀬棚の中心はこちらの北~~松山~~に移っているようであり、近くに今金町、JA 松山と鯨から農業王国のに変わっている様である。

---

ここからが面白かった・(探検、探検的な?)・

北~~松山~~バスセンター(12:54)—宮野(13:29)宮野発(13:30)-----熊石着(13:51)==

熊石発(14:25)---乙部—姥神フェリー前(江差)着(15:37)。

熊石で待ち時間、けっこう長い国道(228/229)線

と小さな沿岸漁師町に寄りながら風景は懐かしく、風情がある、生活も何とかやっている様で、ほっとして、あったかい感じがした。

- ・江差のフェリー乗り場で、奥尻島への旅館をさがしたが、コロナ禍か、ここしばらくは宿泊できないとのこと、仕方がないので今夜はここで泊まることにした(やっと見つけた旅館は目の前の「寺子屋」という格式高いホテルであった。

---

奥尻島への旅は諦めて、江差追分会館に行ったが丁度閉館(18:00)していた。

江差の市街は丘の上であり、寺子屋は港の傍にあり、鉄道は、丘の向こうとのことだが、

それも廃線から 10 年以上も経ち、線路の上には家が建っていた。

港には開陽丸の展示があったが、それも時間的に閉館していた。

そんな時、偶然一軒のレストラン・スナックから明かりがみえ、ピアノの音が聞こえて来た、階段の前には、「OPEN」の看板がかかっていたので、階段を上ってドアを突いて入った・・

- ・突然ピアノが止み、一人の女性が・・

「・・もう店は、終わったのですが、開いてましたか・・?」

- ・「なにか、飲み物はありませんか、」

- ・「缶ビールなら、おつまみになる様なものは、ありませんが・・・」
- ・「それで結構です。」

出て来た缶ビールには、駄菓子味のピーナツが添えられていた。

=

すこし、控えめに話していると、

どうも、この部屋は夜の民謡教室になるらしく、今夜も生徒さんがそろそろ通ってくるそうだと・・・彼女はその先生で、昼はお店(Bar Café)をやっているとのことである。

店内には、多くのトロフィー、賞状が壁に掛り、特別に「**江差追分名人資格認定書**」が飾られていた。

なんと、目の前にいる彼女が**第二十九代**の名人であった。

そのうち、一曲聞かせてくださいとお願いしたら、あの「**かもめの〜なく〜**」の独特の節回しを惜しげもなく、見ず知らずの旅の老人に披露(独唱)してくれたのである・・・

名人は**木村香澄**さんであった

一期一会の縁をいただいた、江差の夜であった。

====

6/8 (江差から松前へ)

江差港フェリー前(9:00)発---**上ノ国**—子砂子—原口(13:55/1357)—赤神、館浜、松前高校、白神岬着(15:00)頃。

バスの運転手は、終点に着いた私に、「白神岬へ行くならバスは展望場広場でターンするので、そこまで行って、そこから歩いて30分程かかります、帰りはタクシーで本町迄帰るといいですよ・・・」

その上、ハイヤーと旅館まで紹介してくれた。」

- ・私は、展望台広場から**白神岬**(北海道最南端)、灯台下まで徒歩で往復した。
- ・旅館は城下の「矢野旅館」にした、
- ・松前城と城址公園を周った(16:00 から 17:30)。  
公園の桜は既に葉桜であったが、光善寺の「**血脈桜**」は健在であった。
- ・光善寺の掲示板に書かれていた、易経の一句が身に沁みた。

**「窮すれば変じ、 変じれば通じる」**

もって、私の行動指針としたい、

----

6/9

(松前—木古内—知内—北斗—森—**長万部**—**黒松内**—**ニセコ**—**倶知安**—  
**余市**—**小樽**—札幌)— (札幌プリンス泊)

- ・松前城址公園前発(08:44)バスで木古内に着いた。  
(JR 松前線は既に廃線となっていた)
- ・新幹線、函館本線を乗り継いで札幌に着いたのは遅かった(21:00)、
- ・森駅で 80 分、長万部で 100 分の待ち時間を利用して駅回りを探索した。  
(森の**いかめし**を食し、**内浦湾**に足を浸けた、)
- ・函館本線の一部(長万部～小樽)が新幹線に変わるらしい・・・間に合ってよかった
- ・予定外ではあったが。これで積丹半島、渡島半島の日本海側と北海道の最南端(白神岬)を周ってきたことになる。
- ・かつての練で沸いた漁港は寂れてはいた。
- ・しかし、やさしい人達は残って頑張っていた。

旅はよい、土地との出会いと何よりも人との出会いがあった。

---

6/10 札幌(11:00)、江別、岩見沢、美唄、砂川、滝川、深川、旭川(14:00)

- ・ホテル(ワイズホテル・旭川駅前)に荷物を預けて、旭川動物園観覧
- ・このホテルをベースにして、本来の旅の計画を考える。
- ・駅で稚内行の予約したとき、駅員に「**JR 北海道乗り放題五日間**」を勧められ、取り敢えず、入手(¥12000)—ラッキー!!

=====

6/11 (土)

**旭川(09:00)**--、士別、名寄、音威子府、幌延、豊富、南稚内、**稚内(12:40)**。

- ・憧れの**宗谷本線**に乗れた、**塩狩峠**はトンネルで通過、  
(特急は速いが、良く揺れる、)
- ・宗谷岬と野寒布(ノシャップ)岬をバスを乗り継ぐ、結構な距離(20k?)
- ・**日本最北端の地**の**宗谷岬**に立つ・
- ・観光センターで今夜の宿を探す、「ホテル滝川」に決めた。
- ・霧でサハリンも利尻岳も望めず(ノシャップ岬から 40k)とのことであるが・)

-----

**急に**、利尻、礼文に渡りたくなかった(**利尻岳**が真近に見えるかも知れない!!)

観光センターでパンフと礼文島の宿(民宿・山光)を調べて今日は ホテル滝川泊として、明日 **決行することにした。**

-----  
6/12(日)

稚内フェリー----利尻島(鴛泊)----礼文島(香深)=---**民宿「山光」泊**

- ・サハリン、利尻富士・・・望めず!!
- ・両島には、観光バス整備連絡されて稚内寄り一日コース可能。
- ・観光バスにて、姫沼、オタトマリ沼・・・**スカイ岬**、**スコトン岬**を踏む。
- ・礼文アツモリウの群生を観る。
- ・民宿の裏庭に「**蝦夷山桜**」に出会って**感激**(2022の桜に追加予定)。

-----  
6/13

・礼文(香深)---**稚内**--宗谷岬、大岬、鬼士別、浜頓別、猿払、**枝幸—大崎旅館**

(全く計画外であるが、**又、急に**、宗谷本線に戻るのではなく、オーツック海に沿って網走に周って見たくなった!!)

- ・昔(1960)、大学校の先輩が、紋別保安部に赴任されたことを思い出した。
- ・バスは地域間で連携して各会社が繋いでいる様であった。  
(宗谷バス=天北宗谷岬線、浜頓別線、音標・雄武線  
(その他、都市間バス(枝幸・名寄、士別、旭川、札幌)
- ・バス便は少ないが、日数を掛ければ、公共交通機関で渡っていける。
- ・バスセンターに着いたら、各種の時刻表を入手した。
- ・今日は、稚内 B/T 発(**13:20**)---鬼士別、浜頓別、枝幸 B/T 着(18:13)  
途中、**20 個所程のバス停を乗り継いだ**(名前は添付時刻表参照)。
- ・宿は、稚内観光センターで紹介された、枝幸の**大崎旅館**に着いた(**19:30**)。
- ・枝幸は、カニで有名な土地で、かつては、鉄道も引かれていた様である。
- ・

---

6/14 長い一日となった。

枝幸 B/T 発(**07:00**)-----JR 釧路駅着(20:00)、なんと **13 時間**になる。

枝幸、音標、雄武、興部、紋別、湧別、**JR 遠軽着(12:00)**

- ・遠軽—北見---網走着(**15:00**)。---(石北本線の一部に乗った)  
途中、紋別道の駅、遠軽、網走で下車して、散策 (駅周りと観光)
- ・観光 (網走港、刑務所)タクシー利用
- ・網走発(**16:30**)----斜里、清里、摩周湖、釧路着(**20:00**)==宿(駅前ルートイン)
- ・**釧網線**は、夕刻のため、絶景見えず!!、
- ・斜里駅での待ち時間に名月と夕焼けは撮れた。  
(知床半島の事故は?気になったが、・・・通り過ぎた)。



---

6/15

釧路===根室==納沙布岬を踏む。

- ・釧路 08:10)、厚岸、茶内、落石、JR 根室駅着(10:49)。(JR 北では花咲線) 根室駅===納沙布岬・・・岬と周辺探訪、静岡の旅人と同伴・約 60 分程。
- ・前方に、歯舞諸島の貝殻島(3.7k)--(現在ロシア統治下にある・・・)目撃・
- ・共に、国土・領土・北方領土とウクライナ、ロシアについて話し合った。  
(また、急に、日本の西南端を踏んでみたくなった!!)
- ・私達は、バスと鉄道(花咲線)を経て JR 釧路駅に戻って、彼とは別れた (15:30)。

=私は又、長い鉄路(根室本線、石勝線、千歳線)を跨いで札幌に向かった。

- ・釧路発(16:12)・特あおぞら 10 号・・・池田、帯広、新得、トマム、追分、新千歳、札幌着 20:22)。
- ・宿は勝手を知った札幌プリンスホテルを取っていた。
  - ・今日は、乗り鉄の日であったが、目的の納沙布岬はちゃんと踏んだ・・・
- ・フリー切符「JR 北海道乗り放題 5 日間」は大いに役立った。

---

6/16・・・留萌本線踏破の日・・・留萌====増毛(バスで観光)・・・

- ・札幌発(12:00)—函館本線—深川(13:00)着・・・
  - ・深川発(13:20)-留萌本線—留萌着(14:25)・・・
  - ・留萌本線、単線、ワンマン車両、乗客少なし(二人程度)  
廃線が、危ぶまれる??
- ・留萌====増毛・(沿岸バス)
- ・増毛駅舎は観光用に昔の姿を遺して売店になっていた、高倉健さんのポスター多し、灯台迄登る、街は練で栄えたが、栄枯盛衰を感じさせる。  
北原ミレイの「石狩挽歌」が思い浮かべられた。
- ・暑寒別岳、霧の為か望めず。

留萌観光センターで今夜の宿を紹介して貰った(駅前の大東旅館)。

その時、夜食の弁当と「萌えつ子フリー切符」を紹介された。

この切符は、「ぐるっと北海道割」を三割引・期間限定(¥1900)を購入。

- ・又、急に今度は・・・宗谷半島の西沿岸を北上してみたいと思った。

---

6/17 沿岸バスで留萌駅前から、宗谷半島の西側沿岸を北上し、

宗谷本線の豊富駅迄、・・・

帰路は豊富駅から宗谷本線を南下して旭川駅迄・・・

往路は

- ・ JR 留萌駅前発(6:20)--、小平、鬼鹿、苫前、羽幌、初山別、遠別、天塩、JR 幌延駅、豊富温泉、JR 豊富駅 (10:15)着・・
- ・ 宗谷半島のオーツック海沿岸に次いで、西側の日本海沿岸を周ったことになる。
- ・ 豊富駅====サロベツ花園(タクシー利用)。花園を回遊(1.5時間)しながらも期待した利尻岳のあの絶景はほんのちょっと頭を見せてくれたが・・(添付写真あり)・・

帰路は

- ・ 豊富駅発(13:42)—幌延、音威子府、美深、名寄、塩狩、士別、旭川着(16:49)・・ 特急サロベツで(稚内～旭川)=約三時間半。
- ・ 宗谷本線を逆走(6/8)したことになる、音威子府、美深、名寄は廃線になった支線の分岐点であった。
- ・ 小説や桜で有名な塩狩峠はトンネルで通過した。

---

6/18 富良野線の富良野駅で、根室本線に乗り継ぎ、狩勝峠を越えて、新得駅迄 ( 根室本線・石勝線への乗り継ぎ)

- ・ 旭川発(09:30)-美瑛、美馬牛、上富良野、富良野駅着(11:00)。
- ・ 富良野—(根室本線)—金山、東鹿越駅==(代行バス)==新得駅。
- ・ バスで狩勝峠を往復出来た!!

お陰で、映画「鉄道員」のロケで有名な、幾寅、落合、幌舞の駅舎を車窓より、幾寅、幌舞では下車してカメラに撮った。

- ・ 富良野では待ち時間を利用して、電動自転車をレンタルし、駅周りを一周した。(富良野神社、空知川大橋、玉ねぎ畑、JA 倉庫・・)

・ 有名な富良野の景観は、少し広い畑、田舎の丘の様であった。

----

6/19 室蘭本線、追分、新夕張、夕張線の代行バスにて夕張炭鉱跡(夕張炭鉱博物館)探訪。

往路

- ・ 旭川発(10:00)—岩見沢、栗山、追分、新夕張駅=(元石勝線=)-夕張炭鉱博物館(路線バス利用)。  
岩見沢は室蘭本線の始発/終点駅、追分は乗り継ぎ駅。

帰路

- ・ 新夕張駅発(19:09)—追分、南千歳、札幌(21:00)—旭川着(22:25)。

-----

6/20 乗り鉄本線の乗り継ぎの日

- 1).旭川(8:25)—上川、石北峠—遠軽駅(11:00)⇒旭川着(12:30)  
石北峠を往復通過、  
事故(鹿と衝突 (遠軽着 10分遅れ・・・)、
- 2).旭川(13:50)—滝川—芦別—(トンネル)—富良野着(16:40)。  
富良野発(16:55)—富良野線経由して旭川着(18:00)。  
富良野は前回も通っているの、駅前をカメラに納めて旭川駅に還る。
  - ・石北本線(旭川～網走)—遠軽から網走は既乗(6/15)。
  - ・根室本線(滝川～富良野、新得、帯広、釧路、根室)・・・新得～根室は既乗(6/15)・・・。

6/21 室蘭本線乗継ぎ(苫小牧～長万部)と日高本線(苫小牧⇒⇒⇒鷗川)の往復完全踏破。

- ・旭川発(10:00)、札幌、苫小牧⇒⇒⇒鷗川、東室蘭、伊達紋別、豊浦長万部、森、大沼公園、JR 函館駅着(17:15)
- ・苫小牧では、日高本線を踏破(苫小牧⇒⇒⇒鷗川)。
- ・函館本線は函館～長万部を二回通ることになった
  
- ・ホテル(駅前コンフォート)に着いて、西向きの函館港に傾く夕日を拝した。
- ・これで、
  
- ・北海道の鉄道本線は、全て乗り継いだ、
  
- ・日本海側、オーツック海沿岸も、積丹半島、渡島半島の西沿岸も (ぐるーと北海道を)周ったことになる・

北海道の東西南北の岬も踏めた(望んだ・・・西は??)

- ・夕日を見ていて、又、気が変わった・・・
- そうだ !! 明日は海峡トンネルでなく海峡フェリーを使って大間に渡ろう・・・

北海道に船では入り、船で出る !! 実に快挙である。

早速電話で明日一番の大間行きの予約を取った。

---

6/22

大間の町は、いまごろは活気に欠けていた。(コロナ禍?)。

本州最北端の大間崎を踏んだ(売店おやじに**証明書**を頂いた、弁当は無く、返しにお茶を買った。)

・昼時であり、取り敢えず、一人の旅人を誘って食堂に入った私はホッケ塩焼き定食、彼女はマグロどんぶり定食を食した。

彼女は大津出身で、ひとり旅を続けている年期の入ったブロガー。

(食堂で、名刺を頂いたが、わたしは箸袋の裏にGメールのアドレスを手書きしてわたした・・・)

・バス待ちの時間を利用して、灯台、港、神社を旅の経験を話しながら散策。

・大間のバス停で、左右に別れて私は右に切った、バスは知らない方向に進み、私の目指す、大湊線は下北駅と違う感覚であった。

運賃は・・・¥2090を越えているが、何とかだろうと終点まで乗った。

どうも、私は、下北半島の地形をよく知らなかったようだ、

乗ったバスは右廻りに沿岸の漁師町、温泉地、高校を経て何とか下北駅に着いた。

(とにかく**地理的な方角と下北半島の概略が分かってなかったのである。**)

大湊線が野辺地と結ばれているはずであると、やって来た電車に乗った途中で陸奥**横浜**を通過して野辺地に着き、そのまま、三沢、六ヶ所村、等を経て八戸に着いた。

八戸で、新幹線に乗り継ぎ、盛岡に遅く着いた(20:40)

=====

思えば、津軽半島は、新幹線の通る前から何回も抜けている(海峡線と新幹線が通る前に桜を追って、またスイミングマラソンの起点(竜飛岬海底駅)として・・・ともあれ**大湊線**乗車は**予想外収穫**となった。・

また、旅の中での人との出会いが楽しい、大津の岡園さんという旅の達人に会えた、**一期一会**の縁を頂いた。

=====

6/23 旅のつかれを盛岡で!!

久しぶりの盛岡である・少しゆっくりしたい、

更に、もう一泊させて貰って翌日、日の高い内に猛暑の大阪に帰ることにし

た。

今日(6/24)

この三年は桜旅の拠点として 10 泊程はお世話になっている・・・のに、その割に、盛岡市街は知らない・・・

今日は暑い大阪に帰る前の体力調整を兼ねて、少し観光をしてみたいと思った。

・市内観光と乾杯

渋谷村の「石川啄木記念館」参観。

市内観光バスに乗って( 開運橋、盛岡城址、映画館通り、旧岩手銀行本店・三人展ギャラリー・・・を周って盛岡駅に戻った。

・駅二階に在る CAFÉ&BAR「キリン city」にて乾杯、乾杯・・・(一人で)

**旅の終わりは、盛岡で!!** 恒例となる・・・

・駅で新大阪までの特急券を入手

今宵のホテル R&B 泊

-----

6/24

盛岡発(07:03)—やまびこ----東京着(11:03)---ひかり 639----新大阪着(16:00)・・・

----- 完 -----

====追伸(挿入部)=====

追伸 1、「憧憬と動機、背景」

「どうして、北海道か」

1. 子供の頃より、北への憧憬、北志向、  
祖父(瀧次郎から・・・手伝いの合い間に聞いた・・・、高田屋嘉兵衛さん、  
稲田騒動(庚午事件)、  
阿久 悠、北大、出澤先生・・・
2. 環境  
鳴育ち 島の向こうへ 小から大へ  
どうも、そんな処に在る様に思える。
3. 何とかなる、成る様にしかならない、
4. もって生まれた、運と寿命がある。
5. やって見なはれ、但し自分で責任を持って

6. 行き当たり、場当たりで、後はお天道さんに任す!!
7. 「結果は、しゃない(仕方がない・・・)
8. 性格、性分である
9. 自分でも、時々自問するが・・・あまり反省しないのである。
10. 民子の教え、「振り返ってくよくよするな、済んだことはことはしゃあない・・・お父さん」

-----

## 追伸 2:旅について・・・

旅は楽しい、

1. 準備、計画と予想、空想(ハプニングもある)
2. 終わって記憶を記録する時  
これは、時間がかかり、大変であるが、記憶は忘れてしまう  
自分の記憶のまだ有るうちに、書き置くのである。  
他人に見せるのでなく、自分の為である。  
(便所で、ホームページ(ipad5 から)を何回も見直すのである、そうすると  
記憶、映像が蘇ってくるのである・・・)
3. 何故書くのか
  - 1.自分の為に遣す
  - 2.忘れたことを思い出すきっかけを作る
  - 3.記憶と記録は違う
  - 4.書くことは、大変(労力)であるが、又楽しいのである。  
人間はしゃべりたい(特に女性は)動物である、男も然りである  
ただ、少しロマンティストでもあるとも思う・・・。

-----

以上 as of 2022/9/1